

市民と議会との語る会実施報告書

日 時	令和7年11月7日（金） 午後7時～午後8時30分頃
会 場	白山公民館
出 席 議 員	畠 勝浩 議員（班長） 森本 辰之 議員 橋本 弥登志 議員 清水 一徳 議員 砂田 竜一 議員 川崎 俊之 議員 前田 修治 議員
参 加 者（市 民）	19名
司会（班長） 議会報告者 全体記録係	司 会：畠 勝浩 議員 議 会 報 告：清水 一徳 議員 記 錄：橋本 弥登志 議員
【1部】 定例会概要報告等 (報告者) 清水議員	<p>Q：議会からの提言9項目について、詳細を教えてほしい。</p> <p>A：神山地区や越前たけふ駅前でもやっているが、市は有機農業に力を入れている。大変な農業である有機農業の推進について提言した。また、担い手不足が大きな課題であり、数十年後には相当の担い手不足が懸念されている。その点について、国や県に支援を要望していくことについて提言した。提言書の資料を皆様に配布する。どういった論点整理をして市長に政策提言をしたかが記載されている。</p> <p>Q：特に白山地区は中山間であるので、耕作が非常に困難な地区である。それが提言の中に入っているのかが気になった。</p> <p>A：白山地区だとコウノトリの関連があるが、提言の1番目に「コウノトリが舞う里づくり」に関係した項目がある。</p>
【2部】 意見交換会 (1班) 進行：畠議員 記録：橋本議員 森本議員	<p>Q：脱炭素社会実現事業について、越前市の場合カーボンゼロの宣言をしていたかと思うが、今後に向けての計画は。</p> <p>A：大体の予定としては、7つほどの小学校に太陽光発電設備を導入することとなっている。また、今立総合支所、本庁駐車場の屋上に太陽光発電設備を設置した。公共施設のLED化はかなり進んでいる。環境基本計画があり、武生中央公園をゼロカーボンセントラルパークにする取り組みもある。ほか、自動運転EVバスによる人手不足と脱炭素への取組など、一步一歩進めていく方向である。</p> <p>Q：白山地区は特に子どもが減っており、来年度は小学生1名しか新入生がない。隣の坂口地区では、近年の児童数がゼロとも聞いている。少ない人数で教育を行っていくにあたりどんな方向性を持っているのか。</p> <p>A：小さいときにそこで生活が楽しくなければ、大きくなったときにその町に住もうと思わないと思う。そのためにどういう教育が子どもたちにとって大切なのかを考えたとき、ある程度人数がいる中で切磋琢磨したり友達を見つけたりすることが必要と考える。また、いじめや仲間外れになるなどがあったときに、複数のクラスがあれば編成面で工夫できるが、それが人数不足でできずにつづと固定化されると教育にとってよくないの</p>

ではないかと考える。市長の1期目の最後にも、いざれは統廃合も必要であろうという話が出ているが、同時に重要なことは、行政が決めるのではなく市民が決めるということ。これから、語る会などを通じて統廃合についての話し合いが始まっていくと考える。地域性と学校の存続を同時に考えて、例えば、学校は統合するが地区は存続させて地域性を持てるようななどの話が出てくるだろう。

Q：自転車活用推進計画について、実際にどのような構想であるのか。私たち市民はどのような参画ができるのか。

A：議会の中でも質問が出ており内容について細かく話をしている。実際の道路状況が悪く、舗装し直さないと自転車が乗れない箇所や、自転車道が確保されていない箇所もある。計画を立ててはいるが、詳細についてはこれから詰めていかないと、自転車を利用したために問題が起こる可能性がある。白山地区に関連させても、上り坂が多い箇所や樹木が茂っている箇所などいろんな問題があるので話を詰めていく必要がある。

Q：例えば白山地区では、いろんな観光地スポットを挙げて徒步や自転車で巡るまちというものを出している。しかし、他地区から来ていただいても自転車は持ってこない。レンタサイクルを用意しようとしても費用面で難しい。そういうときに市は補助してくれるのか。

A：今はそういう案が出ていないので、要望として出していただくことで予算化されれば、議会が受け、必要性を考えていく。予算が限られているので要望すれば全てが通るわけではないが、そういったことで活用していくなくてはいけないと思う。

新幹線駅の話も出ているが、そこから自転車に乗っても昨今暑い日も多く、体調に問題が出る可能性もあり実情に合わないといったことも考えられる。

平成初期の小泉市長のときに日野川沿いを綺麗に舗装しサイクリングロードを作つて自転車活用を盛り上げようとする取り組みがあった。それが今もう一度見直しされる状況になり、計画を通して市民に啓発しようというねらいが計画を作つた発端の一つと考えられる。

（意見）昔あったように自転車の乗り方の競技・大会などを通して子どもたちに普及させるのもひとつでないか。

（意見）ドコモと連携するなどしてシェアサイクルを進める話はあるのか。例えば、ドコモのシェアサイクルだとGPSから利用者がどこへ行ったかが追跡できるようになっており、そのデータを活用すればまちづくりにもつなげられるのではないか。

Q：白山地区は防犯カメラなどがあまり設置されていないのではないか。このあたりは、防犯カメラも明かりも少なく不用心だという意見がある。クマも増えており怖い面もある。

A：諸課題があり、自治振興会が手を挙げていない。学校の玄関には付い

ているがそれ以外にはない。維持管理を全て振興会でしないといけないという課題があり解消されていない。

Q：保育園等物価高騰対策支援事業について、小学校給食には何か補助しているのか。

A：補助している。給食費は、食材費高騰分プラス3分の1の分は補助されている。国が行う給食費無償化の動きに期待しており、議会としても給食費無償化を求める請願を採択している。市が行うには財源は借金するしかないので、未来に不安を残すのではないかとの懸念もある。

Q：議員報酬は上がったのか。

A：現在、市の審議会で議論中である。上がるのであれば、来年7月が改選なので、次の任期からではないか。

Q：少子化対策についての取り組みは。

A：交流人口を増やす方針で、にぎわいを取り戻していくという施策をやっている。総合計画では、交流人口10万人を目指している。

（2班）

進行：清水議員

記録：砂田議員

Q：議員報酬について、最近どのような考え方になっているのか。

A：議会から議員報酬を上げることを要求した。その結果、市で審議会が開催されており、専門的な知見を基に審議をしている。結論はまだ聞いていないが、年度内に回答がある。

Q：通常、物価の流れや社会情勢などでどの企業も給料が上がっており、当然、議員報酬も上がっていくべきと考えている。

A：議員報酬は、条例で定額が決まっており、条例を改正しないといけない。平成27年に議員報酬を5%下げる改正をした。当時、市長の報酬も下げるからとして追随して議員も下げた。議員のなり手不足にも影響している。

Q：鯖江市や坂井市と比べ、越前市の議員報酬は高いのか。

A：5%下げるまでは同等であったが、今は低い状況になっている。せめて以前の報酬額までは上げてもらいたいとは思っているが、上げるのであれば議員定数を削減すべきだという意見もあった。

Q：白山地区は高齢者割合が高いが、移動手段に困っている。バスなど公共交通機関も利用客がいないので存続していくのも難しい。無人化することもお金がかかると思うが。

A：今、自動運転の実証実験を行っているが、相当の経費がかかる。国の予算を使っているが、最終的には自己負担になってくるので懸念がある。白山地区としては、ドアツードアの形にしようと思うと、自動運転よりもデマンド交通が焦点になってくると思う。

Q：例えば、ライドシェアとして、同じ町内の近所のネットワークを作り、移動したいときにラインなどのグループチャットで呼びかけて、そのときに近くにいる人が乗せてあげるような仕組みができるといいのではない

か。事故したときの保険など課題はあるが、それらを行政が補填するなどして仕組みづくりすれば利用者が多くなるのではないか。

A: 今はSNSの時代なので、そういうものを使ったライドシェアをこれから考えていくことはよいアイディアだと思う。議会に公共交通対策特別委員会もあり、先進地の調査研究をしている。地域にあった公共交通システムを考えていかなくてはと思う。地域に行けば行くほど、顔と名前を知っている人が多いというのは利点だと思う。

Q: 先日鹿が檻にかかった。なぜ逃がすのか聞いたら金銭の問題であった。あれだけ農作物の被害がある中、理不尽だと感じた。それと、今いろんなボランティアをしているが、どの組織に行っても同じ顔ぶれである。次の世代への継続性に懸念がある。今後どのような打開策があるのか。

A: だんだん自治振興会役員などの平均年齢が上がっており、世代交代ができるいないと考える。世帯に関しても核家族が増えている。青年団中心で地域活動をやってきたものがなくなっている。

(意見) 高度な教育を受けた人が活かせる場がない。通える範囲に働く場所がない。給料が安い。そういうことも要因がある。親としても、子のやりたいことを応援するので、地元を離れて仕方ないと考えている。

Q: 学校のプールをなくしたが水泳などはどう教えているのか。

A: 武生中央公園のプールで水泳の授業をしている。メリットは、気候に関係なく授業ができる。指導面でも、技術をもった指導者の授業を受けることができる。

Q: スポーツをするのにお金がかかるなどを市は理解しているのか。武道館の修理をしているが、実際には縮小させている。利用料も取らないといけないのか。

A: 財政が厳しいという点がネックであり、公共施設の存続も難しい状況にある。受益者負担として利用する人が負担する方法でないと、無償にすることは、使わない人の税金を使ってしまっているという考え方もある。

Q: 越前市の財政は赤字が増えているのか。どういう対策をしているか。

A: 赤字は増えていない。借金を返済しながら進めている。国の補助金を最大限活用しながら事業を行っている。

(意見) 獣害対策費の枠を広げてほしい。予算がなくなったので檻を閉鎖した。獣害対策費を12月補正でやってほしい。

(3班)

進行: 川崎議員
記録: 前田議員

(意見) 議会からの提言書について、9項目全て有機農業に関するものであった。昨年、私たちもコウノトリ米を作ったが、手間ばかりかかって全然収穫できず1年で諦めた。ここ4、5年で白山地区の生産組合は年齢的にほとんど立ち行かなくなる。そうすると、離れた町内に耕作に出向かないといけなくなりその場合機械を運ばなければいけなくなる。その際に助成いただける制度がほしい。耕運機は自走できないので運搬費が多くかか

る。また、産業廃棄物のもみ殻が出る。野焼きをすると苦情が出る。もみ殻をくん炭にする事業を各地区1箇所ほど配置することを考えてほしい。

Q：有機農業は、聞こえはよいが収穫量が少ない。通常1反8俵獲れるところが3俵しか収穫できない。いくら高くて収穫量が少なくては無理がある。草刈りも大変。提言書を見ても、農家の立場からだと疑問を感じた。A：政策提言をするまでにJAたけふの組合長などいろんな方々と話をしながら1年以上かけてやってきた。やはり水稻は国策だと思う。県から国への要望を求める事項も提言に挙げている。

Q：空き家対策について、空き家に入ったら、申請だけで50万円や100万円を補助するような分かりやすい補助金制度を作ってほしい。学校にしても、五中は1学年10人前後しかいなくて教育が成り立たない。それらの対策をどう考えているのか。

A：一番問題なのは坂口小学校だと思う。合併していこうという考えは今ではなく、教育委員会が地元と協議を進めているところである。

学校の統廃合については、子どもが少なければその成長にも関わってくることであるし、そういう点では未来永劫に渡って統廃合の可能性がないことはないと思うが、地元の皆さんどう受け止められ、今後どうしていきたいかが重要で、議会は皆さんの要望を応援したいと思っている。

空き家の問題については、他自治体へ視察に行ったが、一番進んでいるのは坂井市であった。越前市も空き家が多く、毎回のように一般質問でも取り上げられるが、ほとんど国・県の支援の補助金でやっているだけである。都会など東京からの移住者も、静岡や長野、埼玉など近隣の県に行って福井県に来てくれない。また、福井から出ていった若者が戻ってこない。働くところがないからだと考えている。市が中小企業と話をし、積極的に支援していくが必要だと考えている。

Q：後期高齢者が非常に多く、安養寺町では後期高齢者率が47%になっている。サポートしらやまなど弱者支援の取り組みによって、今はなんとかやっているが、これ以上進むとかなりの不安がある。

A：市も、ライドシェアやデマンドタクシーなど取り組んでいるが、使いやすいものになるにはまだ時間がかかると思っている。地域公共交通は、これからも行政がしっかり見ていかなくてはいけないと考え、我々も特別委員会を組んで調査研究しているが、市民からの様々な意見も議会に届けていただきたい。

（意見）有機農業の提言があったが、逆に慣行米に戻すことも一つの方法だと思っている。最近の農薬は、環境に配慮したものも増えているので、農薬＝悪ではなくなっている。近年、米価が上がったが、有機米との価格差は広がっていない。中山間地農業の労力などに対して、市の中でも差別化をして、昔あったような独自の補助金を復活してほしい。そうでないと、白山・坂口の農業は守られない。また、農業の労働力対策として都会から

	<p>人手を呼ぶ制度ができるとよい。</p> <p>(意見) 町内に独居老人が増えている。見守りをしているが、いずれ我々もそうなる。そこで、独居老人のシェアハウスを作ってもらえないか。健康面に問題のない独居老人が自らで助け合うための仕組みがあるといい。</p> <p>(意見) 相続登記が進んでいない。それらを支援する制度が必要。</p>
--	---

令和7年11月7日

越前市議会 議長 様

第3班 班長 畑 勝浩